近畿地区

地区短信

平成 20 年兵庫県姫路市で「姫路菓子博２００８」開催！

全国菓子大博覧会（菓子博）は、明治 44 年（1911 年）に東京で「第 1 回帝国菓子飴大品評会」が 開催されたのを皮切りに、数年おきに全国各地で開かれている“お菓子の祭典”である。「菓子博」25 回目にあたる 2008 年は、開催地のシンボルである「姫路城」の完成 400 年目、世界文化遺産登録 15 年にあたり、いずれも大きな節目を迎える「菓子博」と「姫路城」のコラボレーションによる平成の菓子文化が、兵庫県で大きく花開くことになる。開催期間は、2008 年(平成 20 年) 4 月 18 日(金)～5 月 11 日(日)24 日間。さりげない人と人との関わりの中で、菓子は「こころ」を伝える。歴史と地域に育まれた数々の菓子には、創り手の「心」と「技」が込められている。人と人、心と心をつなぐ菓子の文化が、大きな可能性をもって、未来に羽ばたくことであろう。今、姫路から、日本から、広く世界へと伝えていきたい、平成の菓子文化。

◆菓祖神：田道間守（たじまもり）を祀る菓祖神社の総本社 中嶋神社を豊岡市に有し、姫路、赤穂、竜野、明石、篠山、出石、豊岡、洲本などの城下町をもつ兵庫県。なかでも姫路は、藩主 酒井忠以（宗雅）と家老　河合道臣（寸翁）が茶人であったことから茶道文化とともに菓子づくりを奨励し「姫路菓子」として発展をとげてきた。姫路城下では早くから「かりんとう」に似たお菓子が播州駄菓子として盛んに作られた。さらに江戸時代から続いた鎖国が解けた後、明治の開国とともに「神戸港」へは、真っ先に西洋文化とともに洋菓子の技術が伝わり、根付いていった。このように兵庫県は、全国有数の和菓子と洋菓子を備えた「菓子処」であり、「菓子博」開催にふさわしい環境を有している。

※「古事記」「日本書紀」によれば、第 11 代 垂仁天皇の命により、田道間守（たじまもり）は不老不死の妙薬「非時香具菓（ときじくのかぐのこのみ）」を求めて常世の国へ渡り、10 年かかって葉附きの枝と果実附きの枝を日本に持ち帰ったが、垂仁天皇はすでに亡くなっていた。田道間守は半分を垂仁天皇の皇后に献上し、残りを垂仁天皇の御陵に捧げ、悲しみのあまり泣き叫びながら亡くなったといわれる。田道間守が持ち帰った「非時香具菓」は、橘（たちばな）の実と言われている。この果実の甘さがお菓子の起源となり、田道間守はお菓子の神様として崇拝されるようになった。日本各地から集まったお菓子の展示・販売をはじめ、菓子職人による工芸菓子の披露、伝統・歴史紹介など、お菓子に関するあらゆるものや情報が一堂に会する会場には全国から多くの方が訪れる。また、この博覧会のもうひとつの特長は、出品されたお菓子の中から賞が授与されること。 賞は、名誉総裁賞、内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞などがあり、本博覧会での受賞は菓子業界の中でも栄誉とされる。初開催から約 100 年、記念すべき第 25 回目の博覧会は、平成 20 年（2008 年）、兵庫県姫路市で開催されることとなった。　【中山亮一】

第2回 日臨技フォーラム

日　時：平成 20 年 2 月 10 日（日）
午前 10 時～午後 4 時
会　場：ヤクルトホール

◆基調講演◆　**みんな地球に生きるひと**
歌手・教育学博士　**アグネス・チャン**　氏

◆乳がんの臨床検査◆
① 乳がんの早期発見・診断・治療について
筑波大学大学院　人現総合科学研究所講師
坂東　裕子　氏
② 乳腺の超音波検査　=ﾏﾝﾓｸﾞﾗﾌｨｰ検査を含んで=
獨協医科大学病院　臨床検査部
今野　佐智代　氏
③ 血液の臨床検査　=腫瘍ﾏｰｶｰをはじめとして=
慶応義塾大学病院　中央臨床検査部
早川　美恵子　氏

※　詳細、申し込み要領は「医学検査－12 号」および当会ホームページをご覧ください。